

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275400212
法人名	有限会社ワコー
事業所名	グループホーム郷の家
所在地	静岡県島田市東光寺178-5
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 11 日
評価結果市町村受理日	令和5年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvoCd=2275400212-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvoCd=2275400212-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 5年 2月 7日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中で、理念に「共感」「尊厳の保持」「自主性の尊重」を掲げ、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを送ることができるよう、ご本人の気持ちや状況を常に考えながら日々の生活支援に取り組んでいます。職員は、ご利用者様に対し『私メッセージ』で働きかけることにより、調理・掃除・洗濯などを気持ちよく行えるようにし、達成感に繋がるお手伝いができるように心掛けています。また、外出支援や行事においては、地域の方と触れ合う機会を大切にし、ご利用者様が笑顔で楽しく過ごせることができるよう、担当職員が知恵を出し合い計画・実行しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた環境の中で、理念に基づく利用者本位の生活支援に取り組んでいる。運営推進会議は、コロナ禍においても、感染状況をみながら対面で開催し、市・地域包括支援センター担当者、町内会長・民生委員や家族や職員と情報を共有し、活発な意見交換を行っている。家族の協力を得ながらの外出支援など、面会方法を工夫しながら家族や馴染みの人との関係継続を図っている。職員は、年に1回個人面談にて法人代表・管理者との意見交換や職員からの意見・提案を聴く機会を設けるとともに、管理者は、常に個々の職員が気持ちよく働くことができる環境整備を心掛けている。職員は、利用者と共に食事の準備をしたり、利用者の得意な趣味ができる環境を整え、利用者らしい暮らしの継続を支援している。感染対策に注力し、朝晩の換気・消毒を行い、清潔な環境づくりに努めている。管理者は、看護師でもあり、医療との連携を図りながら利用者の健康を管理している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に事業所理念を掲げ、ミーティングや社内研修の際に折に触れ、話し合っている。	管理者は、毎月1回、ミーティングや職員研修を利用して事業所の理念や個人目標を確認しながら、理念に基づく支援の実践に繋がっている。日々の申し送りノートや職員のグループLINEを活用し、職員間での情報共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流をし繋がりを持つことで、地域の方と持ちつ持たれつの関係性の構築を目指している。	コロナ禍で地域交流や活動の制限が続いているが、町内会長や民生委員から地域行事の情報を得て、関係構築を大切にしている。コロナ後の交流を見据えて、保育園との交流、認知症カフェ等の再開に向けた検討を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、町内会長さん・民生委員さん・ご家族の方に参加していただいている。折に触れ、グループホームや認知症についての話をし、理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度運営推進会議を開催している。メンバーは長寿介護課・高齢者安心センター・町内会長・民生委員・入居者家族で構成している。様々な意見を聞き、議事録で職員に周知しサービス向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1度、感染状況を見ながら対面にて会議を開催している。市・地域包括支援センター担当者、町内会長・民生委員や家族の参加があり、利用者の様子・職員研修・ヒヤリハット等について、活発に意見交換している。議事録は家族に送付し、職員全員に周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での交流の他、防災や感染に関しての相談や質問など、随時連絡をとるようにしている	市担当者とは、運営推進会議の開催時だけでなく、都度連絡をとることができている。コロナ後を見据えた取り組みについて、高齢者安心センターと常に連絡をとり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、防犯のため夜間のみ。身体拘束ゼロ宣言をしており、身体拘束の職員研修を年に二回行い、身体拘束をしないケアの取り組みが職員全員に意識づいている	マニュアル・指針を整備し、法人役員と管理者・職員代表による身体拘束適正化委員会を開催している。職員は、年2回研修にて身体拘束に関する正しい理解を深め、身体拘束を行わない支援の実践に取り組んでいる。	

静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のための指針、対策を検討する権利擁護委員会を設置、開催している。虐待の防止のための職員研修にて「虐待の芽チェックリスト」を年に一度行い、意識づけができています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方はいないが、職員はパンフレットの閲覧により、制度について理解する機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を決める前にできる限り利用者様やご家族様に見学に来ていただき、ホームの雰囲気などを見ていただくことで不安の軽減に努めている。また、契約時にも十分な説明の時間を設け、疑問に答え、安心していただけるように心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、ご家族が来所した折には必ず状況話し、その話の中でご希望などをお聞きし、把握した上で、運営に反映させている	コロナ禍であっても、玄関先や窓越し面会を行い、毎月のお便りや運営推進会議議事録を送付して、事業所の様子を伝えている。運営推進会議参加時、利用料の支払い時や面会時などを活用して、利用者個々の様子を伝えながら家族からの要望や意見を吸い上げ、情報共有が図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い、意見が出し合える環境づくりをしているミーティングで出された意見や提案を取り入れてサービスや運営に反映させている	年に1回個人面談を行い、法人代表・管理者との意見交換や職員からの意見・提案を聴く機会を設けている。管理者は、常に職員への声掛けや会話を心掛け、個々の職員が気持ちよく働くことができる環境整備を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1～2回ほど面談を行い、働きやすさについて話し合う機会を設けている。勤務表作成前に休暇希望を聞き、なるべく希望通りの休暇をとることができるよう協力体制をとっている。職員個々の家庭環境も考慮し、勤務作成をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は必要な研修を随時受講し、職員に伝えている。また、適宜外部研修を取り入れるようにしている		

静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他事業所との交流を行い、情報収集をしたり、提供したりしている。従業者同士の見学実習を検討しているが、コロナ禍で実施できていない。また、ケアマネットの会に出席し、外部の情報を取り入れることで質の向上を保つようにしている		
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談後、調査に伺い実情を把握し、ご本人が何を求めているのか、何に不安を感じているのかを探り、ご本人との信頼関係を築くよう心掛けている。ご家族やケアマネジャーからも必要な情報を得ている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いに耳を傾け、話しやすい雰囲気づくりをし、ご家族の不安を取り除いていけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの本質を伝え、理解していただき、ご本人の状態やご家族の心境などに配慮して、ご本人主体のサービスが提供できるように心掛けている。ご本人にとって一番合っている環境が提供できるよう他の施設を紹介することもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームでは入居者様が主体であり、今までできていたことが気持ちよく続けられることができるよう、さりげなくフォローできる関係を構築している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にあっても、外出・面会など、十分に注意しながら、なるべく会うことができるように工夫している。また、認知症により家族の関係性が悪くなっている場合においても、家族の絆が保たれるよう目標立ててできるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お彼岸やお盆など、ご先祖様を大切にしてください。ご本人の気持ちを大切に、ご家族様と一緒に墓参りに行くことができるよう支援している	窓越し面会やSNSを活用した面会を実施し、家族との関係継続を支援している。感染防止対策による外出制限がある中でも、利用者・家族個々の希望に沿って、墓参りなど個別の対応を続けている。馴染みのボランティアや保育園児との交流は、コロナ後には再開の予定である。	

静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファーに座り、庭を見ながら外気浴や日光浴をし、開放的な空間や環境を作ることで、仲間意識を持ち、会話を楽しむことができるよう仲立ちをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所した方には、退去後連絡を取り、適宜相談に応じている。死亡退所者については、葬儀に出席し、ご家族のグリーフケアを適宜行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴を辿り、ご家族の協力を得ながら、少しでもご本人の思いやご希望など把握できるように努めている。意思疎通が困難な方にも、ご家族様から情報を得て、思いや希望を考慮している。	管理者は、入居時に利用者・家族の意向やケアマネジャーからの情報をフェイスシートにまとめ、職員との情報共有を図っている。職員は日頃から「私メッセージ」での会話を心掛け、利用者の気持ちの把握に努め、カンファレンス等にて意見交換をしながら支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得たご家族・ご本人・ケアマネジャーなどからの情報を基に、入居者様の把握に努めている。又、日常生活の中で、ふと出た言葉にも注目し、職員間で共有しケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での変化を細かくチェックし、把握に努めている。記録から全職員が把握できるよう、記録の書き方の統一化をしている。また、あったことや言葉をそのまま記録に残すようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的な介護計画以外は、その時々や日々の課題は、ケア内容が決まり次第、申し送りノートで共有している。介護計画は、ミーティングの時に話し合い、介護計画を立てていく。目的意識を持って課題に取り組めるようにしている	職員は、申し送りノートやタブレットを活用した電子カルテにて、日々利用者の様子や気づきなどを記録して、情報を共有している。管理者、ケアマネジャー・計画作成者は、毎月ミーティングで行うカンファレンスで職員との意見交換を図り、モニタリングや介護計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテにし、個別に日々の様子やケアの実践や気づきを記入している。職員は就業前に記録を読み把握している。記録により計画作成者は実際に確認し、共有事項への記録をし、情報共有・介護計画の見直しに活かしている		

静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理容師の免許を持つ職員により、無料で散髪をしている。外出に関しても、できるだけご本人・ご家族の意向に沿って出かけられるよう職員が同行することもある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は毎日スーパーに買い物に出掛けていたができていない。また、毎年楽しみにしていた保育園の運動会や卒園式などの交流も控えざるを得ない状況である。楽しみのひとつであるため、今後、交流が図れることを期待したい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診の協力が得られている。電話での相談も可能	協力医による月1回の往診を受け、状況に応じて電話相談や随時往診の対応ができる。管理者が看護師であり、利用者の健康チェックや体調変化を常に把握できる。他科受診については、家族の協力を得ながら、管理者と連携して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であることから、常に看護の目が行き届いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要になった場合は、入院中は安心して治療ができるよう相談に乗っている。なるべく病院に足を運び情報交換し、ご家族様や医師と相談しながら早期退院を目指し、ホームでの対応ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師との連携がよくできているので、ご家族様、ご家族様を含めた話し合いが十分にでき、状態の変化に伴う説明や支援を行っている。また、看取りの勉強会を一年に一度行っている。看取りの経験がある職員も多い	入居時に重度化・終末期や事業所での対応について説明し、同意を得ている。重度化した際には、再度医師が家族と管理者に状況を説明し、家族の意向の再確認と今後の対応を話し合っている。看取りの研修を1年に1度実施し、知識と経験に基づく看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時には、二度と同じような事故を起こさないように話し合う機会を設けている。また、急変に備え、急変時の対応の勉強会を随時行っている		

静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行っている。近隣・地域との協力体制が整うよう、運営推進会議で話し合いを設けている	年に2回、日中夜間対応で訓練を行っている。コロナ禍により実際の訓練は職員を中心に実施しているが、運営推進会議で話し合いを続け、地域との協力体制を築いている。備蓄は3日分、台帳によりローリングストックで管理している。	令和6年度までに策定する「災害時事業継続計画(BCP)」では、事業所毎の地域との協力関係強化(名簿に協力できる住民の記載など)が必要となりますので、関係構築に向けた取り組みを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域性を大事にし、個々に合わせた言葉掛けをしている。言葉掛けは、「私メッセージ」を使い、尊厳を保持するため、常に快の感情で終わらせられるように心掛けている。	入居時に、SNSの利用や『郷の家便り』の写真掲載については、利用者・家族に同意を得ている。職員は「私メッセージ」を使い、利用者の人格や尊厳に配慮した言葉かけや対応を心掛けている。管理者は、利用者・職員が話しやすい環境作りに注力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が望む生活、尊厳のある生活を送ることができるよう職員は常に対応に気を付け、話しやすい環境作りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事時間は決めているが、入居者様によっては、眠気が強く、遅めの朝食になることもある。職員都合ではなく、ご本人の状態や状況に応じて生活ができるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容は必ず行っている。洋服はご本人の意思も大事にしている。体温調整できにくい方が多いため、適宜さりげなく声掛けをし、厚着や薄着にならないよう気を付けている。ご本人の希望するヘアークットや毛染めをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から盛り付け、片付けまでを一緒に行い、時には味見をしていただきながら、今まで主婦として行ってきたことを続けられる楽しみや張り合いを持って生活できている。食事の時は、談話を楽しみながら食事をしている	コロナ禍により、買い物は職員が行っているが、利用者のできること(調理や味見、盛り付け、片付け)を続けられるよう支援している。支度をする声や調理の匂いや音、おやつを選ぶ楽しい演出など、五感を刺激して食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量のチェック、体重や食欲に応じて食事量を調整している。食欲のない方には、どのような食べ物なら食べていただけるか、などご家族様から情報を得ながら試行錯誤している		

静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。必要な方には、歯間ブラシの使用、義歯の管理をおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況をチェックし、適切なトイレ誘導をここに合わせて行っている。必要なところの排泄介助を行い、できるところはご本人ができる能力に合わせて介助している。プライベート空間のため、羞恥心に配慮したさりげない介入を心掛けている	排泄の記録は、「排泄・水分チェックシート」に記入しその後iPadに入力して、利用者の排泄パターンを把握した声掛けを行い、トイレ利用と誘導を支援している。職員は情報を共有し、利用者の状態や能力に合わせて、配慮した対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘の要因を探りながら介助している。適度な運動・十分な水分摂取が日常生活に組み込まれるよう職員は理解しケアにあたっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いしない介護を心掛けている。ご本人の希望や状況に応じて入浴をしている。快の感情で終わることができるよう「寒い」という言葉がでないよう職員同士情報共有しながら、入浴方法を工夫をしている	利用者の状態や好みに合わせて、希望者は毎日入浴ができるように柔軟に対応している。拒否される方には声掛けや入浴環境を工夫し、無理強いせず、本人の意思を尊重している。入浴できなくても足浴を行うなど、工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご希望やご本人の状態を見ながら、必要に応じて、午睡時間を設けている。一人ひとりの生活リズムを保つことができるよう工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストの作成により、服薬内容が理解できるようにしている。また、新しい薬が処方された場合にも、効果・副作用に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を一緒に行うことで役割を持った生活を保てており、張り合いの持てる毎日を送ることができるよう心掛けている。編み物・刺し子・縫物など、今までの生活歴を参考にしながら好きなことを継続できるよう支援している		



静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援では、なるべくご家族の方にご協力を得ながら一緒に外出できる機会を作っている。入居者さんのご希望を聞きながら出掛けられるようにしている。	手入れの行き届いた庭やテラスで日光浴をしたり、事業所周辺の散歩をしたり、利用者の希望に合わせた個別支援を心掛けている。外出支援は、重要な家族交流・面会機会と考え、家族の協力を得ながら、イチゴ狩り遠足などを実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を手元に持っている方はいない。ほしいものがある時には、購入できるように、ご家族様の了承を得て買い物ができるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望や状況により電話ができるようにしている。お手紙が来た時には、お返事を返すことができるようにフォローしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには、季節感を感じられるようなタペストリーや飾りを工夫している。夕方のレクリエーションでは、季節の歌を取り入れた話や歌を歌う機会を設けている。	共有スペースは、ひな人形飾りや花を活け、季節を感じられる空間作りを工夫している。日中は、居間や縁側で、利用者それぞれが過ごしている。清掃は利用者と職員一緒に行い、消毒・換気は朝・晩1日2回、職員が丁寧に行うなど、清潔な環境作りと感染予防対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間のソファで、それぞれの場所でくつろげる工夫をしている。気の合うもの同士でお喋りできる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日お部屋の整理整頓をしており、明るくシンプルで清潔な部屋作りを心掛けている。お部屋は馴染みのあるものを置くようにしている。	居室の清掃は利用者と共に行い、週に1回は担当職員と共に整理整頓をしている。利用者の動線・状態に合わせて、馴染みのタンスや家具を配置し、写真やカレンダーを飾るなど、利用者個々の居室作りを支援している。季節ごとの衣服や布団替えは、家族の協力を得ながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間、食堂がホームの中心部にあり、一目で全体が分かる。バリアフリーで、トイレも三か所にあり、分かりやすい位置にある。余分なものを置かず、整理整頓を心掛けている。入居者様一人ひとりの安全を考えた動線を考慮している。		